

# 岡山県の地震

## 平成30年(2018年)2月

### 目次

○岡山県及びその周辺の地震活動（2月）	
震央分布図及び断面図	… 1
概況	… 1
岡山県における震度1以上を観測した地震表	… 2
岡山県における震度1以上を観測した地震の震度分布図	… 3
○地震防災メモ No.146	
震度の観測について	… 4

●「岡山県の地震」は月1回発行し、岡山県及びその周辺の地震活動をお知らせするとともに、適宜、社会的関心の高い地震について解説します。また、「地震防災メモ」にて、地震、津波に対する防災等の知識の普及に努め、皆様のお役に立てることを目的としています。

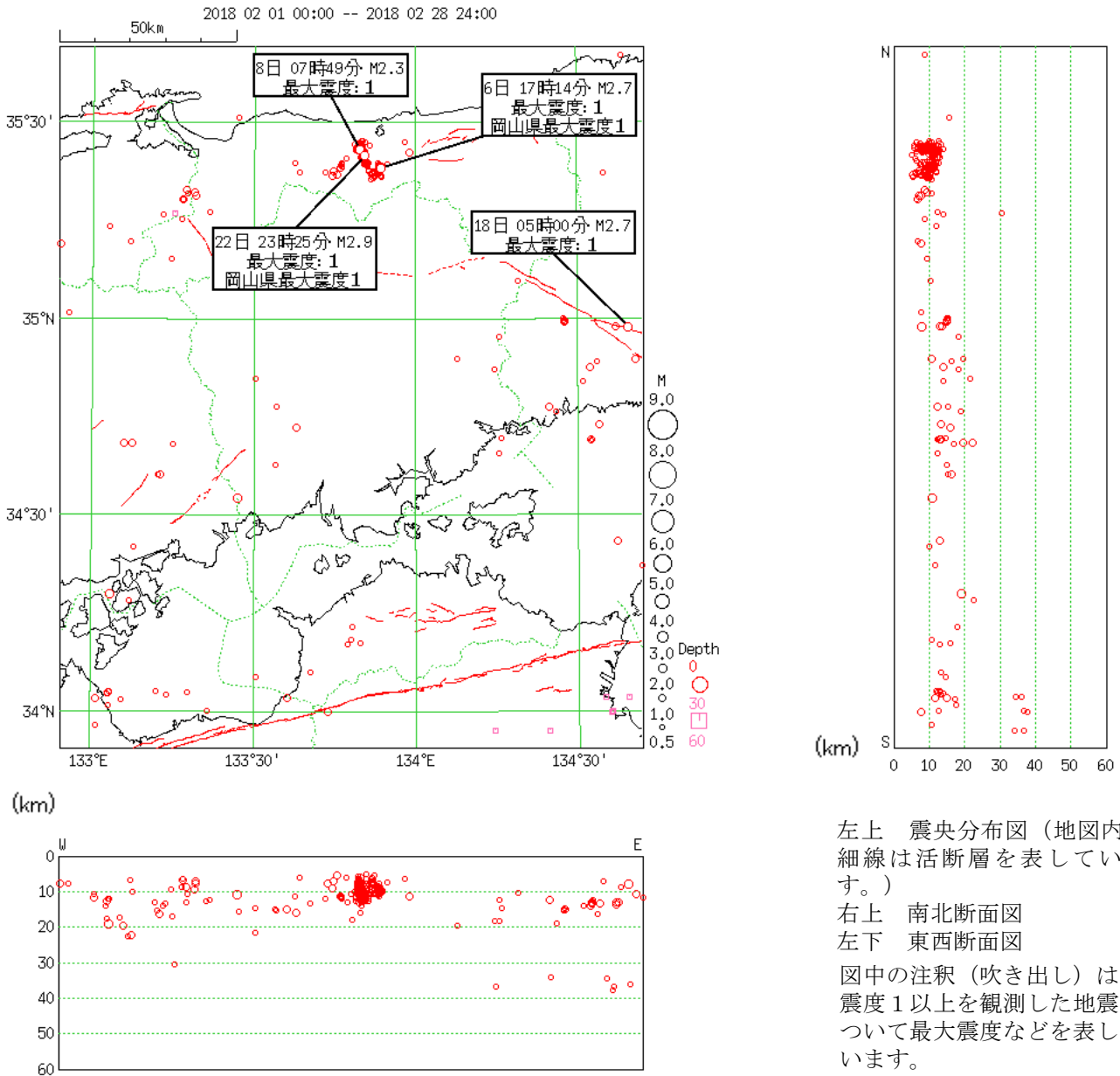
●この資料の震源要素、震度データは、再調査されたあと修正されることがあります。

●本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

## 岡山地方気象台

# 岡山県及びその周辺の地震活動(2月)

## 震央分布図及び断面図



## 概況

### 2月の概況

- ・上図の範囲内で2月に震度1以上の揺れが観測された地震は4回 (前月5回) でした。
- ・岡山県で2月に震度1以上の揺れが観測された地震は3回 (前月2回)、そのうち震央が上図の範囲内での地震は2回、範囲外での地震は1回でした。

## 岡山県における震度1以上を観測した地震表(2月)

2018年02月06日17時14分 鳥取県中部 35° 22.9' N 133° 53.4' E 10km M2.7

----- 地点震度 -----

岡山県 震度 1: 鏡野町上齋原 \*

2018年02月19日03時31分 豊後水道 32° 54.2' N 132° 09.7' E 40km M5.0

2018年02月19日03時31分 豊後水道 32° 53.5' N 132° 08.9' E 39km M5.0

----- 地点震度 -----

岡山県 震度 2: 倉敷市児島小川町 \*, 玉野市宇野 \*, 里庄町里見 \*

震度 1: 真庭市禾津 \*, 倉敷市新田, 倉敷市沖 \*, 倉敷市白楽町 \*, 倉敷市真備町 \*  
倉敷市水島北幸町 \*, 倉敷市玉島阿賀崎 \*, 倉敷市船穂町 \*, 笠岡市殿川 \*  
笠岡市笠岡 \*, 井原市井原町 \*, 総社市地頭片山 \*, 総社市清音軽部 \*  
備前市東片上 \*, 和気町尺所 \*, 早島町前潟 \*, 矢掛町矢掛 \*, 瀬戸内市邑久町 \*  
瀬戸内市長船町 \*, 赤磐市上市, 浅口市天草公園, 浅口市寄島町 \*, 浅口市金光町 \*  
岡山北区大供 \*, 岡山北区御津金川 \*, 岡山中区浜 \*, 岡山東区瀬戸町 \*  
岡山南区片岡 \*, 岡山南区浦安南町 \*

2018年02月22日23時25分 鳥取県中部 35° 24.7' N 133° 50.5' E 12km M2.9

----- 地点震度 -----

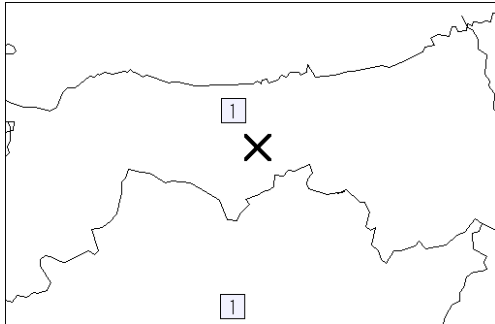
岡山県 震度 1: 鏡野町上齋原 \*

- 注) 1 内容は暫定値であり、後日再調査のうえ、修正されることがあります。  
なお、地震データの確定値は『気象庁地震・火山月報(カタログ編)』に掲載されます。
- 2 地名に\*印を付したものは、岡山県又は防災科学技術研究所の震度観測点によるものです。  
なお、震度は気象庁震度階級表によるものです。
- 3 震源が複数記載されている地震は、ほぼ同時刻に発生した地震であるため、震度の分離ができないものです。

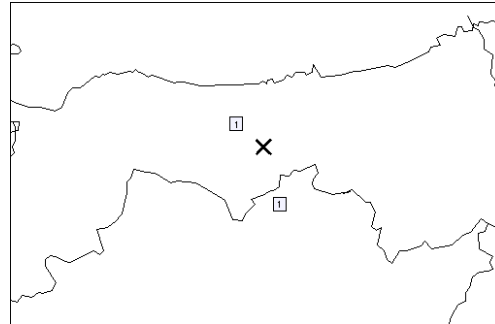
# 岡山県における震度1以上を観測した地震の震度分布図(2月)

## 2018年02月06日17時14分 鳥取県中部の地震

各地域の震度分布



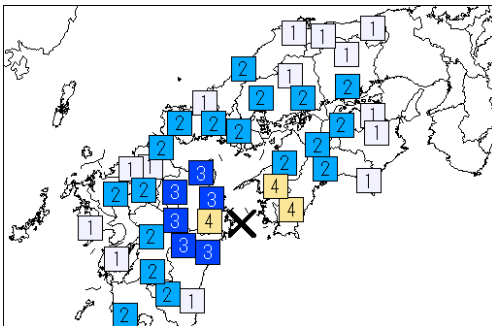
岡山県及び周辺観測点の震度分布



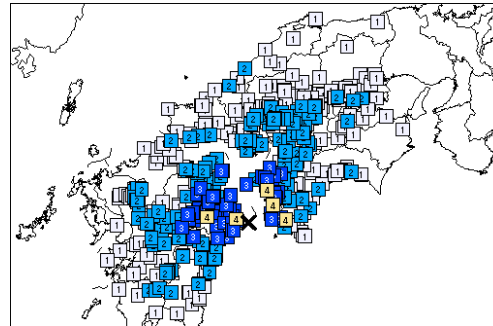
## 2018年02月19日03時31分 豊後水道の地震

## 2018年02月19日03時31分 豊後水道の地震

各地域の震度分布

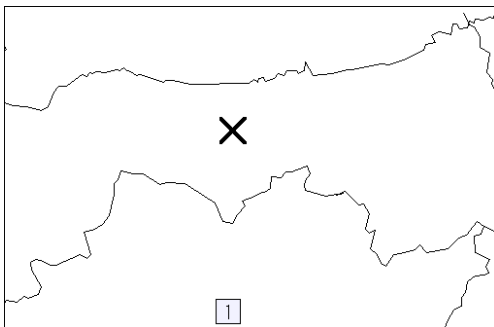


岡山県及び周辺観測点の震度分布

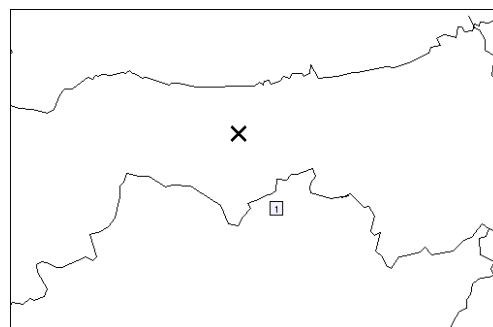


## 2018年02月22日23時25分 鳥取県中部の地震

各地域の震度分布



岡山県及び周辺観測点の震度分布



## 震度の観測について

気象庁が情報として発表している震度は、全国に設置されている震度計で観測した値です。今回は、この震度の観測について解説します。

気象庁では、明治17年（1884年）以来、130年以上震度観測を実施しています。観測開始以来、震度観測は職員による体感で行ってきましたが、観測を客観的に行い、その成果を迅速に発表するため、平成3年（1991年）には世界に先駆けて震度計を開発しました。

平成8年（1996年）4月からは、震度観測は全面的に震度計で行うこととし、体感による観測は廃止しました。同年10月からは、現在の10階級の震度階級（震度5及び震度6をそれぞれ「弱」・

「強」の2階級に分割）による震度を発表しています（右の気象庁震度階級表を参照）。

### ・震度計の導入のメリットについて

震度計の導入により「客観的な観測が可能」、「無人でも観測可能なため、震度計を設置することにより観測点の多点化が可能」、「震度データ収集が自動化されることにより、震度情報の迅速な発表が可能」のメリットがあります。

### ・震度観測体制について

平成30年1月現在、気象庁が発表する震度情報に活用している観測点は、全国で約4400地点となっています（岡山県内では、101地点）。これらの震度計は、気象庁のほか、都道府県等地方公共団体、国立研究開発法人防災科学技術研究所により整備・運営されています。観測結果は、各管区气象台等、都道府県庁または国立研究開発法人防災科学技術研究所等に電話回線や防災行政無線等を使用し集約・処理され、地震発生から数分後には、気象庁へ提供されます。

### ・震度観測結果の利用と震度情報発表について

地震発生直後の震度観測結果は、気象庁が発表する震度情報に含められ、その情報は、発災後の初動対応の判断材料等として多くの防災機関に利用されており、地震防災上欠かすことのできない重要なものとなっています。

### ・正確な震度観測を行うために

気象庁では、震度観測の信頼性を確保するため、震度計が満たすべき性能の技術基準を定めています。また、設置場所及び設置方法等の設置環境についても基準を定め、その改善に努めています。



気象庁震度階級表

震度階級	計測震度	震度階級	計測震度
0	0.5未満	5弱	4.5以上5.0未満
1	0.5以上1.5未満	5強	5.0以上5.5未満
2	1.5以上2.5未満	6弱	5.5以上6.0未満
3	2.5以上3.5未満	6強	6.0以上6.5未満
4	3.5以上4.5未満	7	6.5以上

地震発生からの時間経過とともに発表する震度情報等の種類と震度の大きさに応じた防災対応



震度や震度観測に関する詳細は、以下の気象庁ホームページを参照してください。

「震度について」 <http://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/shindo/index.html>

「正確な震度観測を行うために」 <http://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/shindo-kansoku/>